



令和7年度 全国学力・学習状況調査 結果

4月に3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」（国語・数学・理科・生徒質問紙）が実施されました。この調査は、結果を分析することで、生徒の学習状況の課題を詳細に把握し、指導の改善・充実につなげることを目的としています。この度、結果が公表されましたので、本校の分析結果をご報告いたします。ご家庭での学習計画や学習支援の参考になりましたら幸いです。

1 教科に関する分析

(1)国語

- ・全国平均正答率よりわずかに下回る結果となりました。

【よさ】

「知識及び技能」の「事象や行為を表す語彙の理解」に関する問題と、「思考力、判断力、表現力等」の「論理の展開を考えた話の構成の工夫」に関する問題で、全国平均を大きく上回りました。これは、文脈から言葉の意味を的確に捉えたり、話の順序の意図を理解したりする力が身についていることを示しています。

【課題】

「思考力、判断力、表現力等」の「自分の考えが伝わるよう根拠を明確にして書くこと」や「分かりやすく伝わるように表現を工夫すること」に課題が見られます。自分の考えを伝えるための「根拠の明確化」や「分かりやすいまとめ方」を重視し、振り返りや感想文などの活動を通じて、相手・目的・場面・状況に即した文章作成能力を継続的に育成します。

(2)数学

- ・全国平均正答率を少し下回る結果となりました。

【よさ】

「Dデータの活用」の「説明の根拠や理由を説明すること」に関する問題で、全国平均を上回りました。特に確率に関する「思考力、判断力、表現力」の問題において、確率の意味や表し方を理解し、判断の理由を説明する力が育っています。

【課題】

「A数と式」の「素数の意味を理解すること」と「数量の関係を文字式で表すこと」に課題が見られます。これらは、整数の性質の理解や、数量を抽象的に捉える力の基盤となります。数が持つ基本的な性質の理解を深めます。また、数量の関係に着目させ、文字式で表したり、式の意味を読み取ったりする力の育成を強化します。

(3)理科

- ・全国平均IRTスコアよりわずかに下回る結果となりました。

IRTスコア 各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。
異なる問題から構成される調査の結果を、同じ尺度で比較できる。

【よさ】

「粒子」領域において、「知識及び技能」の「元素を記号で表すこと」に関する問題と、「思考力、判断力、表現力等」の「身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定すること」に関する問題で、全国平均を大きく上回りました。これは、物質の構成に関する知識が定着していることに加え、疑問や問題を科学的な探究課題として設定し表現する力が育っていることを示しています。

～ 理科の続き ～

【課題】

「生命」領域の「生命を維持する働きと関連付けて説明すること」と、「粒子」領域の「化学変化を原子や分子のモデルで表すこと」に課題が見られます。観察や考察を基に知識を概念として身に付ける指導を強化します。具体的には、共通点・相違点に基づく考察や、原子・モデルを用いた視覚的理を促す指導を充実させます。

2 質問紙に関する分析

(1) よさ

【規範意識】

「人の役に立ちたい」「いじめはいけない」の問い合わせに対し、95%以上の生徒が肯定的に回答し、全国平均を上回りました。社会のルールや他者への配慮を理解し、責任ある行動をとろうとする高い意識が伺えます。

【自己有用感・自己肯定感】

「先生がよいところを認めてくれる」「自分にはよいところがある」という自己肯定感・自己有用感を示す項目で、肯定的な回答が90%以上で全国平均を上回りました。また、「困りごとや不安の際の相談」も全国平均を大きく上回っており、自己肯定感を持ち、周囲を頼りながら前向きに成長しようとする良好な姿勢が伺えます。

【ICTを活用した学習】

「ICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどでのまとめ）」と「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表する」の双方で、全国平均を上回りました。これは、情報を分析し整理・統合する高い情報処理能力を、効果的な発表などのコミュニケーションに結び付けることができることを示しています。

(2) 課題

【学習時間】

平日・休日の学習時間が全国平均と比べて著しく短い点が大きな課題です。特に休日の家庭学習時間「0時間」の生徒が25%と、全国平均より10%以上大幅に低下しています。これは学力定着に影響する可能性があります。生徒一人ひとりが毎日決まった時間に家庭学習を行う習慣を身につけられるよう、具体的な目標設定と継続的なサポートを進め、習慣化を図ります。

【読書習慣】

平日に全く読書をしない生徒が53%と、全国平均を大幅に下回っています。読書は語彙力・読解力・思考力を養う上で極めて重要であり、他教科の理解力にも影響します。読書習慣の促進に向け、短時間でも毎日の読書時間を確保するよう働きかけます。学校図書館の活用促進や、生徒の興味を引く本の紹介などの工夫を講じます。

【問題解決的な学習・探究活動】

「自分で考え、自分から取り組む」「自分で課題を立てて追究する活動」に関する回答が、全国平均より大幅に低い結果となっています。自ら課題を立てて解決に向かう姿勢は、思考力や問題解決能力を育む上で重要です。生徒が自ら学習計画や進め方を考え、見通しをもって授業に臨む機会を設定します。また、情報収集・整理・まとめ・発表など、主体的な問題解決に取り組めるよう指導を充実させます。



9月末に退職された櫻井奏汰先生の後任として、久保佑樹先生が着任しました。

久保先生は7月まで本校で勤務していました。11月4日より、あかぎね1組の担任となります。よろしくお願いします。